



わたしの平和宣言

- すべての人の生命を大切にします
- どんな暴力も許しません
- 思いやりの心を持ち、助け合います
- 相手の立場に立って考えます
- かけがえのない地球環境を守ります
- みんなで力を合わせます

（「わたしの平和宣言」は、1998年に開かれた国際人権会議に集まった、ノーベル平和賞受賞者が起草した6項目の誓い。項目のタイトル）

原爆ドーム世界遺産登録25周年

託された使命 — その名も「PEACE MEMORIAL」

広島県ユネスコ連絡協議会

顧問 亀井 章（前広島ユネスコ協会会長・現顧問）

1996年12月、メキシコで開かれたUNESCO世界遺産委員会は、原爆ドームの表記をPEACE MEMORIALとして世界遺産に登録した。戦争に真っ向から対立する【平和】を掲げた。平和を標榜する、世界遺産中唯一の「普遍的価値を有する」世界文化遺産である。

戦争に関する「負の遺産」のナチスのアウシュビッツ収容所との違いは、原爆ドームが人類初の核の被害を実証し、人類と地球の未来を脅かす極めて危険な原子力兵器が再び襲う事態を予測させる有力な存在であるということである。

登録の是非をめぐる、中国は採決で棄権（事実上反対）、米国は「戦争遺跡の登録は世界遺産の範囲以外」として声明に不参加であった。世界遺産会議の採決でヒロシマの遺産登録に異議を唱えた米中両国が、今日、核戦略で争っている。

一方、核兵器禁止条約の国連採択から間もなく1年。米中など核保有国は批准に加わらず、被爆国日本も条約に参加していない。原爆ドームの世界遺産登録を、国連の核兵器禁止条約の採決を経て世界の核兵器廃絶実現を目指す一里塚にしたかった。

思えば、1993年、広島市の弁護士会、医師会、連合広島、広島ユ協など14

団体が「世界遺産をすすめる会」を結成して、国への働きかけを実現する百万人署名を始めて、4か月で165万人達成の署名をもって衆参両議院に請願。94年、広島市長が平和宣言で世界遺産化に言及、同11月、日本ユネスコ協会連盟がシンポジウムを開催。95年文化財保護法史跡指定基準見直しで保護物件に「戦跡」を追加してドームが史跡に指定された。

遺産登録直後、広島労働会館で開かれた登録報告会祝賀会での日本イコモス委員会役員の挨拶が重く押し掛かった。「登録は世界との約束事。遺産の真髄を守り、景観を守る」。

遺産登録の翌97年、広島ユネスコ協会主催記念行事で、平岡敬・元広島市長はドームの働きについて「核のない世界をつくるための日本の外交努力を後ろから支えてくれるもの」「市民が被爆体験を次世代へ、海外へ伝えていく努力を後ろから支え、市民を励まし、叱咤激励するもの」と強調された。



ギリシャのパルテノン神殿に「教育・科学・文化」のUNESCOの文字をあしらったユネスコの徽章に倣って、遺産登録30周年の2026年に、ドームの姿に「PEACE MEMORIAL世界遺産登録30周年」の文字を配したワッペンを発行して、ドーム保存工事資金の一助に出来ないものか。「遺産登録30周年記念事業実行委員会」を、ドームと厳島神社のお膝元のユネスコ協会と両市の教育委員会などで立ち上げて、世界遺産の価値・意義、ユネスコの働きなどを、PRすることを提案したい。

（「広島ユネスコ協会発足50周年に向けて」に寄稿）



「平和の鐘を鳴らそう2021」から

今年8月15日の「平和の鐘を鳴らそう2021」は、集中豪雨と新型コロナのため中止となりましたが、スピーチする予定の3人の高校生とユネスコ大邱協会会長から、平和のメッセージが寄せられました。
(平和・世界遺産部会)

☆分かり合うこと

広島大学附属高校2年 稲垣 凜さん

広島の上空に原子爆弾が投下され、たくさんの尊い命が失われたあの日から、76年という長い月日を経ました。今日までの時間が、被爆者の傷を癒すことはなく、未だに多くの人達が悲しみ、その被害を訴えています。

私は被爆をしていません。当時の惨状を見ていません。ですが、核兵器がどれだけ恐ろしいものか、どれだけ多くの人を悲しませてきたのかという事を知っています。小学生の時から、日本人として、そして広島県民として、教科書や被爆された方々から、原爆のもたらした被害の大きさを学んできました。平和記念資料館で見た、遺品の一つ一つが凄惨さを物語っていました。また、講演会で被爆者の方がおっしゃった言葉を忘れられません。「体の傷が今でも消えない。ずっと心も苦しいままだ」。肉が焼ける臭い、体の大部分を覆う火傷、水を求め川に飛び込みそのまま命を失った数々の死体。想像するたびに、本当にあったことなのかと、改めて思うのです。

普段私たちが当たり前のように生活していることは、特別なことなのです。原爆が人々から奪ったものは、被爆者たちの命だけではありません。育まれるはずだった未来の命も、消し去っているのです。

世界が平和になるためには、分かり合うことが必要です、自らの正義を押し付け、相手の価値観を否定したままでは、互いに手を取りあうことはできません。将来、二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、私たちは、8月6日に起きた出来事を正しく理解し、伝え続けることが大切です。

被爆者の平均年齢は上がり続け、原爆の恐ろしさを語る事が出来る人は限られてきています。だからこそ、今を生きている私たちが、自分には関係無いからと言って目をそむけるのではなく、平和のために向き合うべきです。考え、理解し、伝える。この3つを続けることが平和への一歩へと繋がります。そして、思想、人権、貧富、民族など様々な違いを乗り越え、核兵器の無い世界を目指しましょう。

☆平和とは何か

広島大学附属高校2年 知久 遙さん

戦争が終わってから76年が経ちました。がれきだらけだった焼け野原にはビルが立ち並び、色とりどりの花が咲く公園になりました。しかし、近年、再び平和が脅かされる事態に直面しています。今日はいもう一度「平和とは何か」を考えてみたいと思います。

76年前、ここ広島は地獄のような光景でした。世界初の原子爆弾が投下されたからです。あの時、新しい1日を始めようとしていた人々に訪れたのは、突然の死でした。あるものは家族全員を失い、中には1日として生きられずに亡くなった赤ちゃんもいました。誰もがその瞬間を生きることには必死で、明日のことなど考えることなどできなかったのです。しかし残された人々の前を向く気持ちがこの街を驚くべき復興へと導き、今では世界平和を願う場として大切な役割を果たしています。

今年の1月、国連で賛成多数により採択されていた核兵器禁止条約が発効しました。しかし、世界唯一の被爆国である日本はこの条約を批准していません。日本には、広島と長崎の悲しい歴史を語り継ぎ、核兵器はもとより、戦争によって悲しい思いをする人をなくすという使命があります。そして、今までそれを語り継いできたのは被爆者の方たちです。近年、被爆者の高齢化が進み、直接話を聞く機会も減少しています。1人でも多くの被爆者の方に、核のない明るい世界を見てほしい。そのためにまずは、被爆国として、この条約への一刻も早い批准を求めます。

ところで、今年は東京で1年越しの五輪が開かれています。皆さんは五輪の別名を知っていますよね？そう、「平和の祭典」です。紛争があっても開催期間は停戦状態にするため、こう呼ばれています。これに関連して、ある五輪映画の中の言葉を紹介します。〈人類は4年ごとに夢を見る。この創られた平和を夢で終わらせていいのであろうか〉これを読んだとき、私はハッとしました。私たちは平和な世界を望んでいるながら、心のどこかで「平和=夢」だと思っているのではないかと思います。76年経って、世界は発展しました。世界中で助け合うための機関もでき、コロナ禍で世界の結束が強くなりました。今こそ、行動する時です。「=」を「≠」に変えましょう。「平和≠夢」。平和は夢ではありません。平和は、私たち人類の手でつくるものです。世界の人々と手をつなぎましょう。

この鐘のドームは、宇宙を表しています。一人一人が、自分にできることを考えながら、この鐘を世界に響かせましょう。

☆広島の平和の思い

第24代高校生平和大使

比治山女子高校2年 高橋 奈乃さん

私たち高校生平和大使は、「微力だけど無力じゃない」という言葉を胸に、日々、核兵器廃絶に向けて活動を行っています。

76年前、1945年8月6日8時15分。一発の原子爆弾によって、広島は一瞬で地獄と化しました。水を求めて川に飛び込み亡くなった人、皮膚が垂れ下がった人、目玉が飛び出して亡くなった人、家族を探し求めた人、多くの人が希望を失いました。日常を失いました。そして、原子爆弾によって亡くなった人の中には、子どもや女性たちなどがおり、戦争に関係のない人々が多く亡くなりました。

原子爆弾は、そのような戦争に関係のない人々の命も奪うものです。また、今でも、原子爆弾から出た放射能の放射線による後遺症や、ひどい火傷のあとのケロイドなどにより苦しんでいる人がいます。

今、被爆者の方々の高齢化が進み、原爆の記憶が薄れつつあります。私たち若い世代でできることは、原子爆弾によって奪われたもの、命の尊さ、核兵器の怖さを多くの人に伝えることではないでしょうか。私は、一人一人は微力だとしても、たくさん集まれば大きな力になると思います。多くの方が、原子爆弾によって奪われたもの、命の尊さ、核兵器の怖さについて考えれば、核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けられる「平和の灯」を消すことができるのではないのでしょうか。

私は、多くの人々に広島で起きたこと、核兵器の怖さを伝え、原子爆弾によって奪われたもの、命の尊さ、核兵器の怖さについて考えてくれる人を増やしていこうと思います。広島を平和の思いをしっかりと伝えていきましょう。

☆平和への道

シンドンハク
ユネスコ大邱協会会長 申東鶴氏
(日本語訳 渡邊優子理事)

8月15日に76周年の終戦記念日を迎え、日本国民ならびに広島ユネスコ協会会員の方々が、終戦後、今日まで76年間、世界平和実現のため国際社会に積極的に寄与されてきた努力に敬意を表します。特に国民が自発的に参与する平和運動団体であるユネスコ協会は、民間活動を通じ、平和の精神を生活の中で持続的に実践する模範的な団体として知られています。

現在、世界は解決すべき多くの問題を抱えています。新型コロナウイルスの大流行問題、国際社会における中国と関係諸国間の経済的・政治的問題、北東アジアの政治的・軍事的緊張問題、その他現代の各種社会問題等、多くの問題と直面しています。

こうした問題は、政府が努力すべき部分もありますが、効果的に解決するには、民間活動の役割もやはり重要です。新型コロナウイルスの拡散防止のため、政府がWHOや他国の政府と協力することも重要ですが、国民が自発的に努力し、予防を実践することがさらに求められます。国家間の葛藤には政府の外交政策と協商が重要ですが、民間交流による国民の持続的な関係維持も必要です。特に社会問題の解決には政府の対策とともに、国民の自発的で積極的な参加が求められます。

広島ユネスコ協会とユネスコ大邱協会は、国際社会や国内で民間活動を展開し、ユネスコの平和の理念を実践することで、こうした問題を解決することに寄与しています。平和を愛する心で個人と個人の出会い、対話と意思の疎通により互いに助け合い協力しています。国際的な民間交流で互いの尊重と理解、交流と協力、公益の増大を追求することで、世界平和の実現が早まると期待しています。

76周年の終戦記念日に際し、日本国すべての国民とユネスコのすべての会員が、平和の理念を生活の中で実践し、平和の道を持続的に作り行くことを祈念いたします。

ユネスコ活動奨励賞

8団体(校)が
選ばれました

第24回広島ユネスコ活動奨励賞は、8団体(校)へ授与が決められました。(教育部会)

【学校部門】(3校)

- ・広島市立落合小学校 (校長 岡田 泰)
- ・広島市立梅林小学校 (校長 岩本和貴)
- ・広島県立安芸府中高等学校 (校長 高橋 真)

【社会部門】(5団体)

- ・特定非営利活動法人
ANT-Hiroshima (理事長 渡部朋子)
- ・生活資料館・ハワイ移民資料館「仁保島村」
(館長 川崎 壽)
- ・広島市防災士ネットワーク(代表世話人 柳迫長三)
- ・古川トンボしらべ隊 (代表 西村浩美)
- ・坊田かずまの会 (代表 山中龍馬)

私たちの活動と SDGs

特定非営利活動法人広島フィリピン友好協会
HiroshimaPhilippinesFriendshipSociety

理事長 (広島ユネスコ協会 理事)
横 佩 智 恵

広島フィリピン友好協会は、2009年にヒロシマとフィリピンの相互理解と友好の促進、相互協力のための活動を行い、世界平和の一助となることを目的とする団体として設立されました、広島在住の日本人・フィリピン人で運営している団体です。また、2016年に特定非営利活動法人 (NPO) として認可されました。

事業内容は ①相互理解のための文化交流 ②教育的交流 ③技術的交流 ④設立趣旨に関連する社会的啓発活動ですが、教育支援事業を中心に活動をしています。

“学校にいけない子どもたち”は、世界中に数億人いるといわれます。紛争、内紛の多い今の世界情勢の中で、難民となっている子どもたちの数も膨大

です。

広島フィリピン友好協会では、“学校にいけない子どもたち”の中で、特に“ストリートチルドレン”と呼ばれる子どもたちを中心に、文房具類を送る教育支援活動を続けています。

広島の子どもたち、学校、企業、団体などから寄贈された鉛筆、色鉛筆、クレヨン、ノート等の文房具類、及び衣類、靴等をフィリピン・セブに送り、子どもたちに手渡しています。日本でいう“読み書きそろばん”ですが、ストリートチルドレンの子どもたちには学習への第一歩です。

2030年までの国連開発目標 (SDGs) の17目標のうち、目標4「【教育】すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」には、目標1【貧困】、目標2【飢餓】、目標6【水・衛生】等の目標が関連課題としてあります。

また、広島フィリピン友好協会としても、活動を支える活動資金の継続的な確保が大きな課題です。

中国ブロック・ユネスコ 活動研究会 in 鳥取

Zoomによる
オンライン
開催 (報告)

10月9日(土)、オンラインで中国ブロック・ユネスコ活動研究会in鳥取が開催されました。テーマは「地球に寄り添う持続可能な社会づくり」～ジオパーク(地球の公園)＝足元から考えよう。ジオパークの意義や大切さを学びました。

基調講演 (公立鳥取環境大学准教授の袖洞一央氏)、「山陰海岸ジオパークの魅力について」の紹介 (鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然・安藤和也総括専門員) などがありました。「中国地区内ユネスコESD活動団体(個人)の顕彰」では、広島県の広島市立三入中学校など5県8団体が表彰されました。(広報部会)

12月19日(日) 9:30~12:30
会場：広島市青少年センター
高校生国際理解セミナー

基調講演や
活動発表
(予告)

2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後編としての、持続可能な開発目標 (SDGs 2016~2030年) は、格差の問題、持続可能な消費や生産、気候変動対策など、先進国が自らの国

内で取り組まなければならない課題を含む、すべての国に適用されるユニバーサルな目標です。

19日に開かれる高校生国際理解セミナー【午前の部】では、基調講演やSDGsの目標を私たちの日常生活において身近な課題として取り組む「ノートルダム清心中・高等学校」、「広島県立海田高等学校」の生徒さんによる活動発表、グループディスカッションなどを通して“私たちに出来るSDGs”を考えます。(青少年育成部会)

*なお【午後の部】で予定していたコアアクション(世界寺子屋運動街頭募金運動)は、コロナ禍の状況に配慮し、中止とします。

<書き損じハガキ集めています>

(公社)日本ユネスコ協会連盟は、地球のたからものを守る「世界遺産活動」をはじめ、すべての人に教育のチャンスを広げる「世界寺子屋運動」や「一杯のスプーン」「未来遺産」などさまざまなユネスコ活動を展開しています。広島ユネスコ協会は、世界寺子屋運動の支援活動として、書き損じハガキを集め、高額切手に交換して日本ユネスコ協会連盟まで送っています。

この書き損じハガキは、一枚当たり

5円の交換手数料を差し引いたものが募金額となります。

(例：63円ハガキ⇒58円の募金額)

ぜひ広島ユ協事務局まで送ってください。(恐れ入りますが、送料はご負担ください。)

送り先 〒730-0036 広島市中区袋町6番36号
広島市まちづくり市民交流プラザ
メールボックス89号気付

【新会員】(7月~10月 敬称略)

松下 勝彦、鍵山 実玖、吉田 嘉彦

<会員を募集しています>

ユネスコの理念に賛同し、広島ユネスコ協会の活動に参加したり、支援をしていただける方を募集しています。年会費(個人会員の場合)3,000円。青年(~35歳以下)は2,000円。

申込先：森木事務局長090-7132-2284、
又は広島ユネスコ協会HPから検索。

当協会URL：[https://www.unesco.](https://www.unesco.or.jp/hiroshima/)

[or.jp/hiroshima/](https://www.unesco.or.jp/hiroshima/)入会案内へ。



広島ユネスコ協会